

いにしへの登別を今に

～郷土資料館特別展『縄文の遺跡』～

1月6日(木)から26日(木)まで、文化伝承館で特別展『縄文の遺跡』が開かれました。

この特別展は、多くの市民に縄文時代の文化や人びとの暮らしの様子を知ってもらおうと、郷土資料館ボランティアグループSLGや伊達市教育委員会の協力により、初めて開催しました。

展示しているのは、北海道縦貫自動車道の建設に伴い、昭和55年から発掘調査を行った『川上B遺跡』（青葉町）や『千歳5遺跡』（千歳町）から出土した縄文時代の土器約50点と石器約200点で、今から3,500～7,000年前の縄文時代のものと推定されています。

展示品は、石斧や矢じり、砥石などの石器をはじめ、小型土器、表面に貝殻で文様が刻み込まれている縄文時代早期の土器など、どれも貴重なものばかり。訪れた市民は興味深そうに土器や石器に見入り、縄文時代の登別に栄えた文化に思いをはせていました。

また、1月22日(土)には、土器の復元作業体験が行われ、参加した市民は土器の感触を確かめながら、慎重に破片を張り合わせていました。



▲土器の復元作業体験

腕自慢のつけものがずらり

～第28回つけものフェスティバル～



1月12日(木)、市民会館で『第28回つけものフェスティバル』（同実行委員会主催）が開かれました。

この催しは、日本の伝統・食文化である漬物を次世代に引き継いでいくことを目的に毎年開かれているもので、今回は、かす漬けやぬか漬け、『メロンのみそかす漬け』『大根とヤーコンのきいちご漬け』などのアイデア漬け、自家製の大根を使用したものなど、6部門に市民49人から98点の漬物が出品されました。

市内各種団体や公募の審査員が、味や見栄えなどを厳しく審査し、18点の入賞作を決めていました。

入賞作の発表後、会場に詰めかけていた市民は、わが家の味付けの参考にと、出品作をじっくりと味わっていました。

自然を感じる、冬を感じる

～ふおれすと鉱山
『冬休みスペシャルウイーク』～

1月14日(金)から16日(日)までの3日間、登別市ネイチャーセンター『ふおれすと鉱山』で『冬休みスペシャルウイーク』が開かれました。

この催しは、市民にさまざまな体験や遊びを通して、鉱山町の冬の自然を体験してもらおうと、毎年開催されているものです。

会場には、歩くスキーや動物の足跡さがし、草木染め、スノーキャンドルづくり、ランプシェードづくり、もちまき大会などの多彩なプログラムが用意され、冬休み最後の週末を楽しもうと集まった、多くの市民や親子連れでにぎわいました。

歩くスキーでは、参加者が冬の景色を眺めながら、雪が降り積もった林道を約2時間かけてゆっくりと進んでいました。



▲歩くスキー